



Leben: aktuell

Christa Bayerlein
SHIMIZU Inoko

SANSHUSHA

まえがき

今日、インターネットの普及により、ドイツ語に接する機会が増え、ドイツ語圏の国々の生の情報が容易に得られる時代になりました。また、たとえ日本国内でドイツ語を母国語とする人々と知り合う機会は少ないとしても、E-Mail等によって、ドイツ語を母国語とする人々と直接コミュニケーションをとることは容易になったと言えるでしょう。このような状況から、日本の多くのドイツ語学習者にとって、ドイツ語を情報蒐集の手段、コミュニケーションの手段として使いこなせるようになることを学習目標の一つとして考えることができるのではないのでしょうか。そしてこう考えれば、ドイツ語は単なる履修科目の一つとして終わるのではなく、実用的なドイツ語として、長いつきあいを可能にしてくれるはずです。

本書は、すでに基礎的な文法知識を習得したドイツ語の学習者を対象としています。

本書の特色は、テキストや補助的な資料として、ドイツの雑誌に掲載された記事を——短縮した形で——使用していることにあります。そのため学習者は、言語表現においても、内容においても生きたドイツ語のテキストを読む機会を得ることができます。

各課のテキストには、場合によっては必要以上に多くの〈語句の説明〉と、テキストの理解を深めるための問題〈テキスト理解のために〉が付いています。〈テキスト理解のために〉の部分はカセットテープにも収録されており、ヒアリングの練習にもなります。さらに、既習の文法事項の中でも特に定着しにくい項目を取り上げ、各課で〈文法の復習〉と〈問題〉として復習する機会を設けました。この〈問題〉では、可能な限り各課のテキストの中で使用されている語句を用い、反復学習できるように配慮しています。しかしながら、授業時間数が少ない場合は、この〈文法の復習〉と〈問題〉の部分を学習者の自習用とすることもできるでしょう。

本書は12課構成で、内容的に大きく二つに分かれています。前半の1～5課では、いずれも学生生活を終えて、社会人となる学習者にとって興味深いと思われる問題がテーマとして扱われています。後半の6～11課では、職業を選択した後のドイツ人の生活様式がテーマであり、具体的な人物を通して描かれています。そして12課は、社会生活を営む能力に関する自己診断テストになっています。特に3、6、9課では、「働く女性」という世界的にアクチュアルなテーマも含まれています。

テキストで扱われているテーマは、すべてアクチュアルなものであり、文化の差異を越えて日本の学習者にさまざまな問題を提起してくれるはずです。また一方では、異文化特有の物の見方を認識することによって、文化間の比較のための多面的な手がかりも与えてくれることでしょう。本書が、いろいろな面で学習者の皆さんに役立つことになれば幸いです。

2001年春

著 者

Inhalt もくじ

Einleitung	ドイツの学校教育と職業教育	
Lektion 1	Flexibel 若くして成功する秘訣	1
	文法の復習：助動詞，名詞の造語	
Lektion 2	Wie schaffe ich den richtigen Einstieg in die Karriere?	
	成功へのアプローチ（心理学者による分析とアドバイス）	7
	文法の復習：分離・非分離動詞，命令法	
Lektion 3	Frauen auf Karrierekurs 現代女性の職業意識	13
	文法の復習：受動態，人称代名詞と前置詞の融合形，分数	
Lektion 4	Ein Freiwilliges Soziales Jahr 自主的社会奉仕	20
	文法の復習：zu 不定詞，関係代名詞と前置詞の融合形	
Lektion 5	Karrierestart 勉学の修了と始まり	27
	文法の復習：分詞，受動的表現	
Lektion 6	Kind：Last oder Luxus 子供，それは重荷あるいは贅沢？	34
	文法の復習：比較級・最高級，接続法第 II 式	
Lektion 7	Umweltbewusstsein und Computer 環境保護意識とコンピュータ	41
	文法の復習：定動詞の位置，従属の接続詞	
Lektion 8	Nachwuchs Nonstop 大家族の物語	47
	文法の復習：関係代名詞，関係副詞	
Lektion 9	Rollentausch 夫婦の役割交換記録	53
	文法の復習：es の用法，間接話法	
Lektion 10	Moderner Lebensstil 余暇の過ごし方	59
	文法の復習：形容詞などの名詞化，zu のない不定詞	
Lektion 11	Heidi-Land 有機栽培農場	65
	文法の復習：再帰動詞	
Lektion 12	Wie selbstsicher sind Sie? 心理テスト	70

<学校制度>

幼児教育を制度化した幼稚園 (Kindergarten) は、3 歳から 6 歳までの子供を対象とするが、これはドイツで始まり世界中に広まった制度である。ただしドイツでも、子供を幼稚園に通わせるかどうかは任意であり、保育料は親の収入に応じて設定されている。

ドイツの義務教育期間は、満 6 歳から始まる。子供たちは、最初の 4 年間で基礎学校 (Grundschule) で過ごし、その後、基幹学校 (Hauptschule)、実科学校 (Realschule)、ギムナジウム (Gymnasium)、または総合制学校 (Gesamtschule) のいずれかに進学することになる。つまり、子供たちは、すでに 4 学年の終わりには自分の将来の進路を選択しなければならないのである。しかしそれぞれの学校は、5~6 学年をオリエンテーション段階と位置づけ、その 2 年間に適性の再確認を行い、進路転換の可能性をもたせている。

確かに、進路の最終決定は本人と親の希望によるとは言え、やはり学校側が提示する成績が判断基準となる。このような早い段階での将来決定には、子供の頃から自分の将来や職業を考える機会が与えられているというプラスの面がある一方で、将来の進路をあまりにも早く決定せざるを得ず、その決定には親の希望が反映されやすいなどのマイナス面も否定できない。そのため第二の教育の道も開かれていて、各学校の修了資格を後から得ることができる制度も整っている。

基幹学校には全体の 3 分の 1 ほどの子供が通うが、年々生徒数が減少している。5 年制であるが、5 年間で卒業しても義務教育修了にしかならない。中級卒業資格 (Mittlere Reife)——これは、職業専門学校や専門上級学校への入学資格にもなる——を得ようとする場合、さらに 1 年間学ばなくてはならない。基幹学校では、基本的な教育の他に職業学の授業が行われているが、卒業後さらに少なくとも 18 歳までは職業訓練を受けなくてはならない。

実科学校は 6 年制で、卒業試験に合格すれば中級卒業資格を得ることができる。優秀な成績であればギムナジウムへの編入も可能であるが、実際には稀であるようだ。一般的には実科学校の生徒も、卒業後は職業訓練を受けることになるが、中級卒業資格を持つことによって職業選択の幅が広がる。

ギムナジウムは 9 年制 (ただし、すでに一部で 8 年制が採り入れられており、今後ドイツの全州で 8 年制となる可能性が高い) であり、一般に大学への進学を希望する生徒が通う。ギムナジウムの卒業試験 (Abitur) に合格すれば大学入学資格を得られ、卒業生のほとんどが大学に進学している。

その他に、総合制学校という、基幹学校、実科学校、ギムナジウムの学校形態を一体化させた学校もあり、この総合制学校には、6 年制の学校とギムナジウムに似た構造をもつ 9 年制の学校がある。

<大学>

大学進学に際しては、ドイツではこれまで大学入学資格さえあれば希望する大学に入学できたが、近年大学入学希望者が著しく増大したため、大学の定員数がそれに應えることができず、入学制限を行っている学科もある。

ドイツの大学には、総合大学 (Universität)、これと同等の単科大学 (Hochschule) がある。学部によって卒業時までに必要な履修学期が異なる。学生は、学位試験や国家試験 (教育学、医学、法律学、薬学の場合) などを経て卒業することになる。

また、専門単科大学 (Fachhochschule) という新しい大学があり、これは、工学、経済学、情報学、社会福祉学などの専門に分かれた、実践を重視した大学であり、従来の大学よりも勉学期間は短い。近年では、大学進学者の約3分の1がこの形態の大学を選ぶようになった。

<職業教育>

職業教育は、一般に二元制システムで行われる。これは、企業での実習教育と並行して、週に1~2日職業学校に通うシステムである。18歳未満で他の学校に通っていない者は、必ずこの職業学校に通わなくてはならないため、基幹学校修了の者は3年間、実科学校の卒業生は2年間通うことになる。ただし、最初の一年間は、主に職業に関する理論的基礎知識を習得する職業準備段階となっている。職業学校に通う者も、最終的には修了試験を受けて修了証を授与される。アビトゥーアの合格者で職業教育を受ける者もいる。

このようなシステムの他に、さまざまな形態の全日制の職業専門学校があるが、その中でも専門上級学校は実科学校の卒業を前提としており、2年後に卒業する際には専門単科大学の入学資格も得られる。

今日、職業訓練において公認されている職種は約470種に及ぶが、人気のある職種には偏りがある。男子生徒には自動車機械工、電気工、工業機械工、卸売業・貿易業の実務などに、女子生徒には医療助手、販売業務、美容師、商業事務などに人気が高まっている。

このように、ドイツでは学校教育と職業教育が密接な関係にあり、若者が職業に就く場合、一般的には職業教育や資格が必要とされる。従ってドイツ人は、たとえどこに勤務しようとして、会社や店などの被雇用者というよりも、自ら選んだ職業のプロなのである。職業に就いてからも、更なる職業上のステップアップを目指して、さまざまな職業教育を受けようとする人も少なくない。

Lektion 1

Flexibel

若くして成功する秘訣

大学と職業

ドイツの大学生が大学卒業後に就職する場合、一般的に、日本のように集団で入社試験を受けることはなく、求人広告を出している会社に個人で応募して試験や面接などを受けることになる。それゆえに、日本で見られる大規模な入社式なども存在しない。

そもそもドイツでは、専攻した学科によって、働くことのできる職種が限定されている。例えば文学を専攻した学生は、経済関係（銀行や証券会社など）の仕事に就くことはできない。従って、大学の専攻学科選びは将来の職種を決定することになるが、大学入学希望者数の増加に伴い、大学の受け入れ能力の限界から、入学制限 (Zulassungsbeschränkungen)・定員制限 (Numerus clausus) を行っている学科がある。入学制限を行う学科は大学と学期 (Semester) によって異なるが、建築学、医学、歯学、獣医学、生物学、経営学などの学科で入学制限が行われることが多い。

Studienangebot für den Studiengang Architektur zum Wintersemester 2000/2001

Studienort	Studienplätze	Bewerber
Aachen	240	682
Berlin TU	328	802
Dresden	165	215
Hannover	154	304
Karlsruhe	179	279
München TU	207	705
Stuttgart	231	453
Weimar	255	383

Flexibel

Carsten Berger steht¹ auf Topmanagement². „Ich wollte schon immer mit Führungskräften³ der obersten Ebenen⁴ zusammenarbeiten,“ sagt er, „man kann einfach unheimlich⁵ viel von ihnen lernen.“

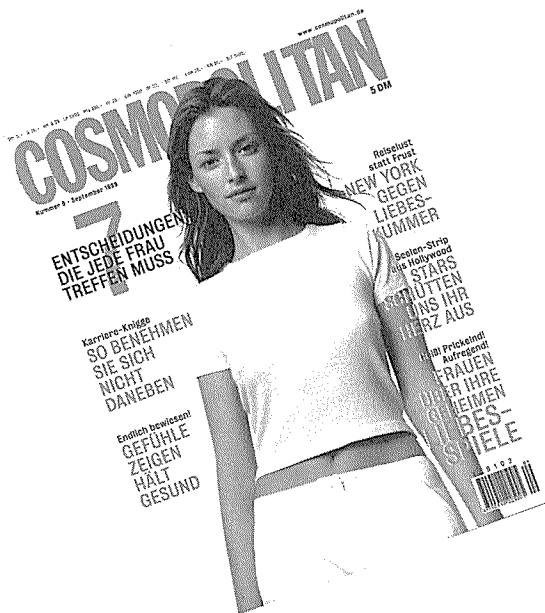
Die Bezeichnung „Seniorberater⁶“ passt⁷ auf den ersten Blick⁸ nicht zu dem 26-Jährigen.

5 Doch wenn Carsten Berger von seiner Arbeit bei einer internationalen Unternehmensberatung⁹ spricht, überzeugt¹⁰ er. Man glaubt ihm, dass er kompetent¹¹ und erfolgreich¹² Spitzenmanager¹³ berät und Firmenstrukturen¹⁴ neu organisiert. Dabei ist er ständig unterwegs: Vier Tage seiner Arbeitswoche ist er für die Kundenberatung¹⁵ vor Ort¹⁶. Das kann in München sein, aber auch in Hongkong oder Tokio.

10 Wie schafft er das alles? Carsten Berger lacht: „Ach, da gewöhnt¹⁷ man sich dran¹⁸. Natürlich bedeutet meine Tätigkeit auch viel Stress. Aber ich merke meistens nicht, wenn ich schon wieder¹⁹ zwölf Stunden oder länger gearbeitet habe. Außerdem ist Reisen²⁰ meine Leidenschaft²¹. Viel Zeit für Privatleben²² bleibt natürlich nicht.“

Das BWL-Studium²³ in Deutschland und Frankreich machte er in vier Jahren. Mit 23 hatte
15 er schon den Firmenvertrag²⁴ in der Tasche²⁵. Seine Fachkenntnisse²⁶ hat er nur zum Teil²⁷ aus dem Studium. Viel muss er sich immer wieder²⁸ neu aneignen²⁹: „Mein letzter Kunde war ein Medienunternehmen³⁰, jetzt berate ich ein Bergwerk³¹. Da muss man flexibel sein.“

(deutsche Cosmopolitan 11/98)



Anmerkungen <語句の説明>

- | | |
|--|---|
| 1 auf ... ⁴ stehen ~を特に好む | 18 dran (daran の口語表現→L3 参照) |
| 2 das Topmanagement 最高経営 | 19 schon wieder またもや |
| 3 die Führungskraft (企業の) 首脳部 | 20 Außerdem ist Reisen meine Leidenschaft.
そのうえ、私は旅行が大好きなのです。(Reisen は、
reisen 「旅行する」の名詞化→L10 参照) |
| 4 die Ebene レベル | 21 die Leidenschaft 大好きなもの |
| 5 unheimlich 非常に | 22 das Privatleben 私生活 |
| 6 der Seniorberater 上級コンサルタント | 23 das BWL-Studium 経営学の勉強
(BWL=Betriebswirtschaftslehre) |
| 7 zu ... ³ passen ~に(似)合う | 24 der Firmenvertrag 会社との就業契約 |
| 8 auf den ersten Blick 一目見て | 25 et. ⁴ schon in der Tasche haben ~を手中に収
めている |
| 9 die Unternehmensberatung 企業相談所 | 26 die Fachkenntnis 専門知識 |
| 10 (jn.) überzeugen (～を) 納得させる | 27 zum Teil 一部は |
| 11 kompetent 専門知識をもって | 28 immer wieder 繰り返し |
| 12 erfolgreich 効果的に | 29 sich ³ et. ⁴ an eignen ~を習得する |
| 13 der Spitzenmanager 最高経営責任者 | 30 das Medienunternehmen メディア企業 |
| 14 die Firmenstruktur 企業構造 | 31 das Bergwerk 鉱業所 |
| 15 die Kundenberatung 顧客の相談 | |
| 16 vor Ort 現場に | |
| 17 sich ⁴ an ... ⁴ gewöhnen ~に慣れる(再帰動詞
→L11 参照) | |

Zum Textverständnis <テキスト理解のために>

1 本文の内容に一致しているか、チェックしなさい。

- | | Ja | Nein |
|---|--------------------------|--------------------------|
| 1. Carsten Berger arbeitet gerne mit Topmanagern zusammen. | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2. Carsten Berger arbeitet seit 26 Jahren bei einer internationalen Unternehmensberatung. | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3. Carsten Berger hat in Deutschland und in Frankreich studiert. | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4. Carsten Berger muss sich immer wieder neue Kenntnisse aneignen. | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5. Carsten Berger ist vier Tage seiner Arbeitswoche in München. | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

2 次の問いに対する答えとして正しいものを、下から選びなさい。

1. Warum arbeitet Carsten Berger gerne mit Spitzenmanagern zusammen?
Carsten Berger arbeitet gerne mit Spitzenmanagern zusammen,
- a) weil man mit ihnen Auslandsreisen machen kann.
b) weil man von ihnen viel lernen kann.
c) weil sie erfolgreich und kompetent sind.

2. Warum muss sich Carsten Berger immer wieder viele Kenntnisse neu aneignen?
- Er berät sehr verschiedene Unternehmen und muss deshalb flexibel sein.
 - Er ist erst 26 Jahre alt und muss deshalb noch viel lernen.
 - Er betreut Kunden im In- und Ausland und ist deshalb ständig unterwegs.

3 次の文と同じ意味の文を，下から選びなさい。

- Man kann einfach *unheimlich viel* von ihnen lernen.
 - Man kann einfach nicht sehr viel von ihnen lernen.
 - Das Lernen mit ihnen ist einfach für viele unheimlich.
 - Man kann einfach sehr viel von ihnen lernen.
- Natürlich* bedeutet meine Tätigkeit auch viel Stress.
 - Zweifellos bedeutet meine Tätigkeit auch viel Stress.
 - Außerdem bedeutet meine Arbeit auch viel Stress.
 - Manchmal bedeutet meine Arbeit auch viel Stress.

Wortschatz <語彙集>

旅行 die Reise

eine Reise machen 旅行する
 die Auslandsreise 外国 [海外] 旅行
 die Fernreise 長距離の旅行, 長旅
 die Flugreise 空の旅
 die Dienstreise 出張
 die Anreise (目的地までの) 旅行, (旅行者の) 到着
 die Abreise 旅立ち
 die Reisetasche 旅行カバン
 das Reisebüro 旅行社

時 die Zeit

die Sekunde 秒
 die Minute 分
 die Stunde 時間
 der Tag 日
 die Woche 週
 der Monat 月
 das Jahr 年
 das Jahrhundert 世紀

忠告, 助言 die Beratung

beraten 忠告する, 助言する
 der Berater (男性の) 助言者, コンサルタント
 die Beraterin (女性の) 助言者, コンサルタント

I 助動詞

現在人称変化

	してよい	できる	かもしれない、 好む	ねばならない	すべきである	するつもり である
不定詞	dürfen	können	mögen	müssen	sollen	wollen
ich	darf	kann	mag	muss	soll	will
du	darfst	kannst	magst	musst	sollst	willst
er,sie,es	darf	kann	mag	muss	soll	will
wir	dürfen	können	mögen	müssen	sollen	wollen
ihr	dürft	könnt	mögt	müsst	sollt	wollt
sie	dürfen	können	mögen	müssen	sollen	wollen
Sie	dürfen	können	mögen	müssen	sollen	wollen
過去基本形	durfte	konnte	mochte	musste	sollte	wollte
過去分詞 ①	gedurft	gekonnt	gemocht	gemusst	gesollt	gewollt
②	dürfen	können	mögen	müssen	sollen	wollen

Man kann einfach unheimlich viel von ihnen lernen. (L1)

彼らからとにかく非常に多くのことを学ぶことができる。

過去人称変化

弱変化動詞（規則変化動詞）の過去人称変化と同じである。

Ich wollte schon immer mit Führungskräften der obersten Ebenen zusammenarbeiten. (L1)

私は前々から最高レベルの首脳部と共に仕事をしたいと思っていた。

完了形

haben を用いて完了形を作る。過去分詞には、

- ① 単独で独立動詞として用いられる場合
- ② zu のない不定詞と共に助動詞として用いられる場合 の二つの形がある。

未来形

未来形を作る助動詞 werden を用いて作る。

II 名詞の造語（合成語）

二つ以上の語を結合させて作る合成語はドイツ語で多く見られ、その合成語の性と変化は最後の基礎語によって決定される。

合成語（名詞＋名詞）の作り方

- ① A+B （結合の語尾がない場合）
das Fach+die Kenntnis → die Fachkenntnis

- ② A+(e)s または (e)n+B (規定語が2格の場合)
das Unternehmen+die Beratung → die Unternehmensberatung
- ③ A (複数形) +B (規定語が複数形の場合)
die Firma (pl. die Firmen)+die Struktur → die Firmenstruktur

Übungen <問題>

1 次の文を指示に従って書き換えなさい。

1. Ich wollte immer mit Führungskräften der obersten Ebenen zusammenarbeiten. (現在形に)
2. Man kann einfach unheimlich viel von ihnen lernen. (現在完了形に)
3. Viel muss er sich immer wieder neu aneignen. (未来形に)
4. Wir dürfen während der Arbeit nicht sprechen. (過去形に)
5. Er soll den Manager eines Bergwerkes beraten. (現在完了形に)

2 枠の中から最も適切な話法の助動詞を選び、二つの文の意味が同じになるように補いなさい。

können mögen müssen

1. Carsten Berger steht auf Fernreisen.
= Carsten Berger () Fernreisen.
2. Gewöhnen Sie sich daran!
= Sie () sich daran gewöhnen.
3. Mit 23 hatte er schon den Firmenvertrag in der Tasche.
= Mit 23 () er schon in einer Firma arbeiten.

3 本文の表現を用いて、ドイツ語で言いましょう。

1. この仕事は、彼には合わない (向いていない)。
2. それは、ひと目惚れ (Liebe) だった。
3. あなたは、すぐに (bald) ドイツでの生活に慣れるでしょう。
4. 彼女はまたもやフランスへ旅行しなくてはならないが、それは大きなストレスである (bedeuten)。
5. 私たちは、専門知識を大学で (an der Uni) 習得することができる。